

「徳島県水素グリッド構想（案）」の概要について

1 構想策定の趣旨

徳島県では、水素社会実現の第一歩となる「燃料電池自動車（FCV）の普及」と「水素ステーションの整備」を加速化するため、平成27年1月に「徳島県水素グリッド導入連絡協議会」を設置し、同年3月にはFCVや水素ステーションの普及目標を「徳島県水素グリッド構想（中間報告）」としてとりまとめた。

このたび、徳島県における「水素社会の実現」に向けた道筋を県民の皆様が目に見える形でお示しするため、本県の2030年における水素社会を展望した「ロードマップ」をはじめ、エネルギーの「地産地消」に向けた施策展開や、災害時における「非常用電源」としての活用方針などを盛り込み、「徳島県水素グリッド構想」の成案として策定するものである。

2 構想の概要

(1) 水素社会実現に向けた国・県・事業者の取組み

- ① 国の取組み エネルギー基本計画等に水素社会を位置づけ
4大都市圏を中心とした整備方針
- ② 徳島県の取組み 「地方からの水素ステーション整備」を国へ政策提言
水素元年のスタートダッシュとなる水素関連予算の確保
とくしまマラソンでの先導走行など県民に対する普及啓発の実施
- ③ 事業者の取組み 県内事業者が四国で初めて国補助事業の交付決定

(2) 徳島県における燃料電池自動車・水素ステーションの普及促進

① FCV等の普及目標、水素ステーション整備目標

		2025年	2030年
FCV等の普及目標	FCV	1,700台	3,600台
	FCバス	10台	20台
圏域別水素ステーション整備目標		6箇所	11箇所

② 目標達成に向けた施策展開、水素エネルギー普及「ロードマップ」（主なもの）

- ・ 県庁水素ステーションを核とする「水素社会啓発・体験ゾーン」の整備
- ・ 水素エネルギーの社会的受容性向上に向けた啓発
- ・ 「高速バス」等へFCVの実証導入
- ・ 「南部・西部圏域」での移動式水素ステーションの実証運用
- ・ 水素ステーションの「全圏域への展開」
- ・ 県内産「副生水素」の活用によるエネルギーの「地産地消」
- ・ 全市町村へのV2H（双方向電源装置）の展開による「災害時活用」
- ・ さらなる規制緩和の実施や補助制度の拡充などを国へ政策提言